

| | |
|--------------|---|
| Title | 企業の製品開発を支援する戦略的マネジメント・コントロールの機能に関する研究 |
| Author(s) | 山根, 里香 |
| Citation | 大阪大学, 2008, 博士論文 |
| Version Type | |
| URL | https://hdl.handle.net/11094/49056 |
| rights | |
| Note | 著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、 〈a href="https://www.library.osaka-u.ac.jp/thesis/#closed"〉 大阪大学の博士論文について 〈/a〉 をご参照ください。 |

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

| | |
|------------|---|
| 氏名 | やまね いのお さと か 山根 (井尾) 里 香 |
| 博士の専攻分野の名称 | 博 士 (経営学) |
| 学位記番号 | 第 2 1 7 3 6 号 |
| 学位授与年月日 | 平成 20 年 3 月 25 日 |
| 学位授与の要件 | 学位規則第 4 条第 1 項該当 経済学研究科政策・ビジネス専攻 |
| 学位論文名 | 企業の製品開発を支援する戦略的マネジメント・コントロールの機能に関する研究 |
| 論文審査委員 | (主査) 教授 浅田 孝幸 (副査) 教授 高尾 裕二 教授 金井 一頼 |

論文内容の要旨

本論文は、大きく2つの主題を基にしている。1つは、企業における環境配慮型製品開発（略して、ENPD）におけるマネジメント・コントロールシステムに関する最近の特徴を捉える為のユニークな事例研究と、2つめは、欧米の主要な環境配慮型製品開発マネジメント関連の文献サーベイから設定された仮説を基礎においた実証研究からなるものである。これらの議論の端緒には、欧米の主要なマネジメント・コントロール研究をサーベイし、その後、一定の研究フレームワークを構築し、いくつかの主要な仮説を検証するための基本的課題がまず明らかにされている。具体的な論述の流れとしては、まず、1章で研究動機を明らかにし、第2章では、経営活動と環境マネジメントの関係を3つのステージに分けて把握し、マネジメントコントロールシステムと製品開発との関係を整理する。第3章では、マネジメントコントロールシステムの主要な理論を概説し、3人の論者の議論を整理して、彼女の研究テーマに関連した、戦略的マネジメント・コントロールシステム（略して、SMCS）の特性を明かにしている。第4章では、企業内の製品開発活動とそれを支援すべき戦略的マネジメント・コントロールシステムの関係を環境配慮型製品開発に注目することで明かにしている。第5章では、具体的な事例を使い、環境配慮型製品開発でどのような戦略的マネジメント・コントロールシステムが機能したかをインタビュー調査と資料を基に説明している。第6章では、質問調査表を利用して大量標本による仮説検証のための研究方法の概要を説明している。第7章では、上記の質問表を利用して収集した日本企業のサンプル・データをもとに、ENPDにおけるSMCSの役割は、「ENPDを取り巻く不確実性を解消し、具体的な技術仕様・製品仕様などの目標を取り込むうえで、環境戦略や環境方針を反映した一定の価値判断基準をもとに吟味・選別された情報を提供し、その情報を解釈されるように機能する」という仮説にもとづきSMCSに提供される情報を分析している。第8章では、SMCSの多様な機能を効果的に利用した場合に、不確実性が解消され、経営のパフォーマンスが上がることを検証している。第9章は、まとめと残された研究課題を示し議論を整理している。

論文審査の結果の要旨

本論文は、環境配慮型の製品開発において、マネジメント・コントロールシステムが大きな役割を果たすことを、事例および、大量サンプル・データを利用して解明したものであり、日本企業における、環境問題解決のための具体的な組織内の仕組みがどのような因果関係として機能しているのか、その一端を解明しようとした意欲的研究であり、パス解析の手法の特性をうまく利用して SMCS の可能性と限界を明かにしている点でも、高く評価できる。しかし、研究テーマが壮大なだけに、残された課題や研究の頑健性という点で課題をもっている。とはいえ、この分野での日本企業の SMCS の機能の一端を解明し、事例による検証とも合致している点、SMCS 研究への貢献は高く評価できるものである、よって博士（経営学）に十分に値するものと判断する。